

へいわの 平和を祈ろう

お づる しょうじょ し
～折り鶴の少女を知っていますか～

へいわ ねが こ はな お がみ はいふ
平和の願いが込められたお花の折り紙を配布します。

お がみ ひろしま へいわきねんこうえん ぜんこく ささ お づる さいせいし
この折り紙は、広島市の平和記念公園に全国から捧げられた折り鶴の再生紙を
しょう
使用しており、たくさんの方々の平和の祈りが込められています。

はいふ び
配布日 (10時から喜平図書館の正面玄関付近で配布します)

ひろしま げんぱく とうか ひ がつ にち にち
◆広島に原爆が投下された日 8月6日(日)

ながさき げんぱく とうか ひ がつ にち すい
◆長崎に原爆が投下された日 8月9日(水)

しゅうせんきねん び がつ にち か
◆終戦記念日 8月15日(火)

にち こ はいふ よてい
※1日に15個の配布を予定しています

なぜ広島市の平和記念公園には全国から折り鶴が届くのだろう

きっかけは、佐々木禎子さんという少女です。佐々木禎子さんは、2歳のときに広島で被爆しましたが、その後元気に成長しました。しかし、小学校6年生の秋に突然白血病と診断されて病院に入院することになりました。回復を願って薬の包み紙などで鶴を折り続けましたが、8ヶ月の闘病生活の後に亡くなりました。折られた鶴は千羽を超えていたそうです。禎子さんの死をきっかけに、原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め平和を築くための像をつくろうという運動が始まり、全国からの募金で広島市平和記念公園内に「原爆の子の像」が完成しました。その後この話は世界に広がり、今も「原爆の子の像」には日本国内をはじめ世界各国から折り鶴が捧げられ、その数は年間約一千万羽にもものぼるそうです。